

バイオマスの環づくり交付金(施設整備事業)

東北農政局

都道府県	市町村名	地区名	事業実施主体	事業内容	評価年度	事業計画目標	目標達成状況		事業実施主体	総合評価		備考
							実績値	達成状況		都道府県	農政局等	
福島県	猪苗代町	猪苗代	猪苗代町	地域モデルの実証:堆肥製造施設の整備	H22	計画受入量:6,281t/年 計画生産量:2,456t/年	3,765t/年 1,068t/年	59.9% 43.5%	<p>原材料の搬入が計画を大きく下回っていることから、堆肥製造量も目標値を達成していない。原材料のうち、生ゴミについては、事業所においての生ゴミの分別負担増と分別することにより、通常の可燃ゴミと生ゴミを別々に運搬しなければならないため、収集運搬経費が大きな負担となるため進展していない状況である。また、もみ殻についても、個別農家の理解が十分でないため、当初計画の量の搬入ができていない状況である。</p> <p>今後の目標達成に向けた取組みとして猪苗代町は、生ゴミの搬入量を増加させるため、事業所系生ゴミの処分料の減額、運搬業者の経費軽減について検討するとともに、家庭系生ゴミについても回収するエリア拡大に向け、対象集落の理解を得るため説明会等を開催していく。</p> <p>また、もみ殻についても、町内個別農家の理解促進を図り、搬入量を増加していく。家畜排泄物については、約8割の搬入を確保しているが、目標達成に向け密閉型コンテナの増設(購入)を検討する。</p> <p>製品については、想定された堆肥が製造されているが、今後農家が農作物や土壌等の種類により求める様々なニーズに対応することが必要と考えられる。また、気温・湿度等の気候条件の変動にかかわらず、一年を通じて均一の製品を生産・販売しなければならないと考える。</p>	<p>原材料の搬入が計画を大きく下回っていることから、堆肥製造量も目標値を達成していない。原材料のうち、生ゴミについては、事業所においての生ゴミの分別負担増と分別することにより、通常の可燃ゴミと生ゴミを別々に運搬しなければならないため、収集運搬経費が大きな負担となるため進展していない状況である。また、もみ殻についても、個別農家の理解が十分でないため、当初計画の量の搬入ができていない状況である。</p> <p>今後の目標達成に向けた取組みとして猪苗代町は、生ゴミの搬入量を増加させるため、事業所系生ゴミの処分料の減額、運搬業者の経費軽減について検討するとともに、家庭系生ゴミについても回収するエリア拡大に向け、対象集落の理解を得るため説明会等を開催していく。</p> <p>また、もみ殻についても、町内個別農家の理解促進を図り、搬入量を増加していく。家畜排泄物については、約8割の搬入を確保しているが、目標達成に向け密閉型コンテナの増設(購入)を検討する。</p> <p>製品については、想定された堆肥が製造されているが、今後農家が農作物や土壌等の種類により求める様々なニーズに対応することが必要と考えられる。また、気温・湿度等の気候条件の変動にかかわらず、一年を通じて均一の製品を生産・販売しなければならないと考える。</p>	<p>本事業は、猪苗代町が、これまで町内のホテル等及び一般家庭が廃棄処分していた食品残渣等を原材料に、堆肥生産を行うものであり、地域資源の有効活用の観点から非常に有効である。猪苗代町は、H21年度の実績を踏まえ、改善に向けた取組みを行うこととしているが、取組みを具体的に、原料供給者であるホテル等及び一般家庭、また、需要者である地元農家等と必要な調整を行い、引き続き目標達成に努める必要がある。</p>	
福島県	富岡町	富岡	(株)タカヤマ	地域モデルの実証:堆肥製造施設の整備	H22	計画受入量:6,000t/年 計画生産量:2,000t/年	7,638t/年 1,102t/年	127.3% 55.0%	<p>バイオマス処理(受入)量としては計画を達成したが、その品目の中で副資材として活用する目的であるパーク(樹皮)が社会情勢により確保し難い時期があり、計画に対し、低い結果となりました。パークは、堆肥化の過程で発酵しづらく減容されないことから計画では、バイオマス処理量に対し堆肥生産量が1/3と計算していた。しかし、パークの受入量が少なかったことから、バイオマス処理量に対し堆肥生産量が少なくなり、目標に達しない要因となりました。また、堆肥を製造する工程の最終段階で、製品の粒子の大きさを整えるために一定の網の目に通す作業を行います。この作業を終えたものが農家へ販売されることとなります。この製品の供給時期は、稲刈りの終わった秋以降の3ヶ月間位に限定されるため、多くの堆肥製品を保管する製品倉庫を使用していますが、ふるい作業は、効率を考慮すると堆肥を保管する場所の近くで行うことが望ましく、製品倉庫の一部にふるい作業機を設置しています。この製品倉庫は、密閉型には造られていないため、ふるい作業を行う工程において、臭気による周辺住民からの苦情があり、作業時間帯を限定して行わなければならない時期がありました。この作業を限定したことで、ふるい作業を行う一歩手前の堆肥が施設内に多く在庫されたことも、生産目標に達しない要因としてあげられます。</p>	<p>—</p>	<p>本事業は、富岡町のバイオマスタウン構想に基づき、富岡町が、町内で発生するバイオマスから堆肥生産を行い、地元農家に販売するものであり、地域資源の有効活用の観点から非常に有効である。</p> <p>事業実施主体は、H21年度の実績を踏まえ、地元で入手可能な水分調整材(パーク、おが粉)の確保に努めているほか、ふるい作業を行う際の臭気対策(施設密閉のための処置)を実施している。事業実施主体は、富岡町と連携を密にし、周辺住民に丁寧な説明を行い事業に取り組み、引き続き目標達成に努める必要がある。</p>	